

四條畷市文化財シリーズ1

四條畷市の遺跡



逢阪の五輪塔

四條畷市教育委員会

シリーズ刊行によせて

市文化財シリーズ第1集として、市内の遺跡を紹介するこの小冊子を発刊できたことをまず喜びたいと思います。

各種の開発事業により急激に変化する当市の姿は古い権威や伝統に対する価値観を根本からゆきぶり、社会、文化の面に大きな変容をもたらしました。これらにより影響をうける市内文化財は、単に遺跡や埋蔵文化財に限らず、建築物、民俗資料等、各分野に及んでいます。古くからの自然、文化的遺産を破壊する行為が、ここ数ヶ年の生活開発のため、発展という美名のもとに行なわれ、さらに進行する現在にあって、今こそ市民すべてが、伝統や文化財のもつ意義を確認しなければならないと考えます。

残念ながら当市の直面している現状も文化財保護の必要性とはうらはらなものに思えてならないのですが、社会教育という広範な中での地味なそれでもぜひ必要な文化財保護行政に一層の御理解と御協力を念願いたします。

昭和49年3月

四條畷市教育委員会

教育長 奥田久雄

例 言

このシリーズ1は、昭和46年10月～昭和47年3月にわたり、市教育委員会が、桜井敬夫氏に委託実施した。四條畷市文化財分布調査の報告書を参考に作成したものである。

讃良川川床遺跡

忍ヶ岡駅の北方寝屋川市の境界を流れる讃良川旧川床から後期旧石器時代の石器が出土した。その種類はチョッピングトゥル・握槌・刀器・細石器で地表下1.6m付近の礫層中に縄文式土器とともに出土した。この地点はかつて讃良川の川床であり、おそらく上流から流されてきたものと推定される。四條畷市最古の遺跡である。

岡山縄文遺跡

忍ヶ岡駅より北西500m讃良川北岸の台地とそれに続く河岸段丘にひろがっている。この遺跡は昭和24年と44年の二回調査がおこなわれ縄文時代の後期～晚期を中心に石鏃・石斧・敲石・皮はぎ用ナイフ・土偶・土製勾玉・石錘等と共に土器多種を出土した。北河内地方特に東部洪積台地は縄文時代早期の交野市神宮寺遺跡、枚方市穂谷遺跡、前期の津田三ツ池遺跡、中期の交野市星田旭遺跡、後期～晚期のこの岡山遺跡があり、旧石器時代から縄文時代の狩猟民たちの生活舞台であったようだ。



忍ヶ岡古墳

忍ヶ岡駅北側の踏切を渡り西方に進むと忍陵神社がある。この神社のあるところが古墳の後円部でこの古墳は昭和9年室戸台風後発見されたもので昭和10年に調査され古墳時代前期に属する前方後円墳で全長87m後円部の径45m、現高6mあって墳頂(後円部)に積石の竪穴式石室(長さ6m×幅1m)が発見された。出土遺物は、石剣・紡錘車・鍬形石・劍身・鋸・刀子・鉄鏃・鉄斧・鎌で河内を一眺する地に営なまれた貴重な古墳である。

墓の堂古墳

国道163号線四條畷小学校南交差点より南150m西側中野墓地全体が方墳で東西約120mを主軸とする。古墳時代の後期の方墳であると思われるが、南側関電鉄塔工事に際し円筒埴輪片が出土したとも言われている。墓の中央大木下に大きな石があるといわれていて石室の遺構が存在するものであろうと推定されている。

四條畷小学校遺跡

四條畷小学校敷地内で小学校新築工事の際、浄化槽付近において須恵器・土師器を包む黒土層の所在が認められ古墳時代後期の頃の住居址ではないかと推定される。プール工事で出土したと伝えられる壺は漢式土器と呼ばれて朝鮮半島より直接渡来したものである。学校プール北館浄化槽全体が遺跡と思われる。

正法寺境内石棺（棺身部）

現在大字中野にある正法寺境内に淨め水の水槽として置かれたものである。旧正法寺（清滻）の寺域東北隅に所在した双子塚から出土した棺身部であり、凝灰岩を加工したものである。清滲に双子塚の地名をとどめているのが完全に消滅した。棺の蓋は



蓋は国中神社に運ばれている。正法寺石棺は家型石棺に属し、その大きさから考えて貴人の子供を葬ったものであろう。

讃良寺跡

忍ヶ岡駅より北西500m讃良川岡山繩文遺跡地と同じ場所で、奈良時代以前(白鳳)に建立されたものと推定され、「さらじ」あるいは「更荒寺」と書かれ河内讃良郡の郡名を寺名にしている点から郡領となったこの地の豪族の新羅系氏族の茨田勝が創建者でなかったかと推定される。出土遺物のうち特に軒丸瓦は大和の川原寺と同じ様式である。

忍ヶ岡駅前遺跡

東高野街道打上バイパス工事中に発見された遺跡で奈良時代の須恵器・土師器などが出土地した。この付近を中心に東一帯が奈良時代の住居跡ではないかと推定されるのである。

正法寺跡

四條畷小学校北方清滝街道北の小字正法寺一帯を寺域とする正法寺は現在の大字中野の正法寺の前身である。白鳳時代より鎌倉末期に至る間栄えた寺院で



昭和45年府道バイパス予定線がここを通る為調査された結果南面する大伽藍で南大門・中門・東西両塔(三重の塔)・金堂・講堂・僧房とならんで創建時は荘麗な容姿を清滝山下に誇っていたと思われる。各種(飛鳥時代末の瓦を含む)白鳳時代から江戸時代にいたる軒丸瓦・軒平瓦・平瓦・鬼瓦・瓦器・燈明皿等多数出土した。立地場所も古代大和と河内北部の交通路である清滝街道または河内国府に通ずる山の根の道(後の東高野街道)の交差点にあたり極めて重要な場所に位置しているのである。

国中神社境内石棺

清滝、国中神社参道入口に所在する。古墳時代の石棺蓋部である。又石棺身部は大字中野にある正法寺境内に水槽として用いられている。この石棺蓋は旧正法寺跡附近の「双子塚」



なる字地から出土し、江戸時代に現在の場所に移されたものである。

石材は凝灰岩で家型石棺（他の種類として、割竹型石棺・舟型石棺・長持型石棺・箱式型石棺）に分類される。

棺は言うまでもなく遺骸を収めて埋葬に使用するもので、その棺の内側には線刻の仏像がかすかに見られるのは、後世の佛教信仰にもとづくものである。

逢阪の五輪塔

逢阪に所在する。以前は、旧清滝街道の逢阪の峠の最頂部にあったものが、国道163号線の工事のため現在地に移転された。鎌倉時代の立派な五輪塔で、地輪面の中央に「大阪一結衆延元元丙子三月□日造立之」の文字を写



真でも読みとれるほど鮮明さで、峠上に無縁仏と共に建っている。

五輪塔は墓地に建立されるのが通例であるが、現在地は墓地ではない。

逢坂石仏信仰遺跡

逢坂に所在する。

この遺跡は旧清滝街道（現163号線）の逢坂の道路東側にある遺跡で、自然の山の側面に露出した大きな岩2個からなり、女性の性器を象徴しており信仰の対象となつた場所ではないかと考えられる。



室町時代以後に石仏をこの大きな岩の間に、安置して新たに信仰の対象としたものであろう。

付近で弥生式土器片の散布を伝えているので、今後に興味をのこす信仰遺跡といえよう。

楠木正行墓

南野562に所在する。天然記念物樟の木と共に花崗岩位牌形の大碑に贈從三位楠正行朝臣之墓と刻まれ、楠木正行の靈をまつっている。楠木正行一族戦死後遺骸をこの地に葬ったと伝えられている。

大碑が建立され墓域が整備されたのは明治8年の頃である。

楠木正行墓地の樟

南野562に所在する。楠木正行一族がこの地に戦死後、この碑の両側に樟の木を2本植えたとの口伝があり、この樟が成長して1本の形になった。幹の回り10m、枝は半径20m四方に伸び現在に至っている。小楠公墓地にふさわしく、約500年を経ていると思われる。

昭和46年3月に大阪府天然記念物に指定された。

和田賢秀墓

南野の東高野街道東側に西面して所在している。近時墓域は整備されたが、和田賢秀を祀る。小楠公の麾下として四條畷の戦に於て單独勇戦し、討死もたと太平記は伝える。墳上に石碑があり、「昔とへばす、き尾花のあらし吹く」天保二年九月浪花の人永田友之と刻んでいる。また、石碑は幽神さんとよばれ、今も信仰の対象となっている。

住吉神社境内石風呂

上田原住吉神社境内に所在する。古墳時代の石棺のようにもいわれるが、構造から見て淨身用の石製浴槽と考えられる。

石材は花崗岩をくりぬき、底部に直径 5 cm の穴をあけている。使用の折には下から火を通してではなく、湯を入れて浴用としたものであろう。



四條畷の条里制

古代土地区画方式で六町四方を里という。これを一郡又は数郡単位で南北を条・東西を里として数え、里を六等分し坪と呼ぶ三十六区画に分ける。讃良郡（大東市・寝屋川市一部・四條畷市）の条里は、大東市中垣内を一条とし北へ寺川・二条、野崎・三条、四条地域・四条、北條・五条、南野・六条、蘿屋・七条、砂岡山・八条、寝屋川小路・九条、高宮・十条、秦・十一条となっている。市内に条里制を示す地名としては、南野に三六・十ノ坪・十一・四ノ坪・十五、中野に三ノ坪、蘿屋

に二八、岡山に六ノ坪などがある。

田 原 城 址

上田原八の坪に所在する。田原盆地入口の丘陵（30米の丘陵上、200米四方）を利用した丘城である。城の下・上・門口・二の門・的場・矢の石・一の門等の地名はそのなごりで



ある。……伝えによれば田原対馬守（永禄年間）の居城で、三好長慶が畿内に覇を唱えた時期に当って、飯盛城の支城としての機能をもっていたのと思われる。

十 三 仏

市内には、南野弥勒寺境内・正法寺境内（二基）・滝・田原住吉神社境内・下田原タチバカ・中野共同墓地（二基）の七基が確認されている。十三仏とは、一枚の板石に死者の初七日から三十三年忌までの十三回の供養をする仏達を刻んだもので鎌倉末期に始まるといわれている。死後の世界にあって死者の味方となり、罪障を軽減してくれる仏を祀った十三仏は、死者あるいは自身没後の罪障消滅のために、庶民が創作した仏達と考えられる。

小 松 寺

小松寺（南北朝）は、四條畷カントリークラブの九番ホール附近にあり、昭和四十一年ゴルフ場建設の際破壊寸前で発見された。小松寺は建立当初荒寺と称されたが、後に小松景光供養のため七間四面の堂が建てられ小松寺と称されるようになった。真言宗密教として栄えた山岳寺院小松寺も、戦乱時には立地の陰祖さが利用され、

豪族の據る山城となった。このため、田原・逢坂の人々は小松寺を、小松城と呼んでいる。現在小松寺の存在を語るものは、数点の出土瓦・九番ホールに祀られる和田賢秀墓・暇高地歴部所有の寺院配置図しかない。

田原の両墓制

死者を葬った場所に墓碑を建て永久の祭りの場とする単墓制に対し、比較的短期間祭りをするだけで、祭りの場所を別に設けるのを両墓制と呼んでいる。田原地区では、第一次墓地をオバカ・第二次墓地をタチバカと呼んでいる。人里近くにタチバカが、人里より離れてオバカがあるのが一般的である。両墓制は死の穢れを忌み避けることより起り、淨盡を別の地に祭ろうとする考え方である。田原地区では、月泉寺五輪塔・卵塔墓地以外は両墓制である。

雁塚

雁塚と呼ばれる石碑は、「雁塔」と刻まれ、台座には雁塚説話なるものが刻まれている。この説話によれば、「腕利きの獵師が一羽の雌雁を射たが、不思議な事に首がなかった。冬も終りに近づいた頃、やせ衰えた雄雁を射てみると羽交の中より雁の首が出てきた。獵師は、五年前に死別した妻を思い浮べながら水田近くの岡に雌雄の雁を葬り石塔を建てた。後年富商寺尾幸助はこの夫婦愛に胸をうたれ立派な石碑に建て直した。」とある。雁塚が建てられ、雁の靈を祀った背景には、水田開発が進み群なしていた雁が少なくなった文明年間が考えられよう。



四條畷史年表

四條畷のことがら		国のことがら
原	旧石器時代 25,000年前 越良川川床跡	500,000年前 旧石器文化はじまる。 明石人・三ヶ日人・牛川人の出現
始	紀文時代 岡山更良寺縄文遺跡（中期）	縄文式土器が作られ、狩猟・漁獵の生活が富まれる。
古	弥生時代 忍ヶ岡古墳（前期） 墓の蒙古塚（中期） 國中神社境内石棺（後期） 止法寺境内石棺（後期） 内條殿小学校遺跡（後期）	弥生式土器がつくられ、水桶瓶がひろがる。 鉄製工具を使用し、陶器が始まる。
代	飛鳥時代 一余良時代 平安時代 中世	239 優耶馬台国姫卑努呼、魏に遣使する。 4世紀中頃までに大和朝廷の統一 仁德天皇陵である。 794 平安京に遷都する。 860 石津水八幡宮創建 894 遣唐使廻上 1086 白河上皇、院政を始める。 1156 保元の乱おこる。 1192 源範朝、征夷大将軍となり、鎌倉に幕府を開く。 1232 刑部院式目を制定。 1274 蒙古来襲、文永の役おこる。 1467 忍びの乱おこる。 1543 植子島に鉄砲伝来 1573 足利幕府滅ぶ。

四條畷市遺跡分布地図



1 謙良川床遺跡	11 達坂五輪塔
2 岡山更良寺縄文遺跡	12 達坂の石仏信仰
3 更良寺跡	13 楠木正行墓地のくす
4 忍ヶ岡駅前遺跡	14 楠木正行墓
5 忍ヶ岡古墳	15 和田賢秀墓
6 正法寺跡	16 住吉神社境内石風呂
7 四条畷小学校遺跡	十三仏
8 墓の堂古墳・十三位	17 田原城址
9 正法寺境内石棺・十三仏	18 雁塚
10 国中神社境内石棺	19 小松寺址

作成スタッフ

監修 桜井敬夫・瀬川芳則
執筆 鶴飼満男・野島 稔
柳本照男・片岡 修
写真 野島 稔
企画 井上博司

発行 1974年3月

発行者 四條畷市教育委員会

印刷所 田中印刷 K.K
